ユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「分かる!」「できる!」学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック 活用事例

1　活用した項目（該当する内容は☐を☑に変えて表示）	
☐　すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方	☑　すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例
☑　「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例	☐　「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート

2　活用場面
○ 校内研修会でハンドブックの説明とそれを活用した実践を行うことを提案する。 ○ 校内研修会で、それぞれの実践の共有化を図る。

3　活用対象
○ 全職員

4　活用の詳細
＜5 月＞ ① ハンドブックを、全職員に配付し、いつでも目を通せるファイルに綴じ込んでおいてもらう。 （例：学校経営案のファイルに綴じ込んでおく。） ＜6 月＞ ② ハンドブックを一読し、自分の実践に取り入れてみたい部分を選ぶ。 ・ 提案されている内容を参考に、自分の学年・学級・教科で取り入れてみたい内容を選ぶ。 ・ 取組の視点を参考にしながら、「まずは一つだけ」「取り組みやすい所から」自分の実践に取り入れてみる。 ＜7 月から 8 月＞ ③ 自分の実践を「取組の視点」「写真や資料」「成果と課題」の三つの視点で、A4・1 枚にまとめる。 ・ 具体的実践内容がより伝わりやすいように、写真を効果的に活用した報告書にする。 ＜11 月＞ ④ 研修会を活用し、互いの実践を紹介し合う。実際の児童生徒の姿や変容を出し合うことで、実践の根底にある「ユニバーサルデザインの視点を取り入れる」ことの意味を共通理解する。 ・「同僚の実践に学ぶ」文化を育てる機会にできるとよい。 ☆ 別添資料を参照。

「分かる!」「できる!」学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック 活用報告

（1）年 （1）組 担任 （ ）

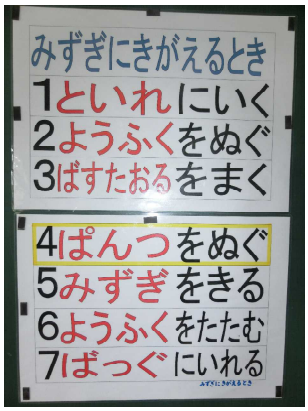
＜取り組んだ視点＞

・ P16 活動の見通し…朝の活動や学習の際に、どのような順序でどんなことをするのか活動の見通しが持てるように、短い言葉やイラストで掲示し、指示がなくても自主的に進められるようにする。

＜写真や資料＞

登校してから、学習用品を出したり、ランドセルを片付けたりするまでの手順を示したカード

絵の具の使い方や片付け方などを、絵と文で示したカード



水遊びの学習で、着替えの手順を示したカード。始めに説明した後、水遊びの学習のたびに掲示しておくことで、大きな声で指示することなく、自分で準備を進めることができる。

＜成果＞

○ 入学したばかりの子どもたちにとって、学校生活の約束事など覚えることがたくさんあり、混乱をまねくことがある。また、準備が整わないまま次の指示を出してしまうと、取り残されてしまい学習意欲をそぐことにもなりかねない。様々な場面で活動の見通しを示したカードを準備することで、次に何をするのか分かり、自主的な活動を進めることができる。また、毎回同じ手順を示すことで、ルーティンができ、安心して学校生活や活動を行うことができる。初めての活動で、多くの手順を必要とするものについては、このような支援が必要だと感じる。

「分かる!」「できる!」学年全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック 活用報告

(5)年(1)組　担任（　　）

〈取り組んだ視点〉

P17① 学習意欲の向上を目指した学習環境の整備

P17② 望ましい行動の育成

P18③ 学級及び個人の評価の見える化による意欲付け

〈写真や資料〉

①学習の足跡の掲示

①児童の言葉を話型として掲示

②「目指す児童の姿」掲示

③発表カードでの自己評価

③ビー玉貯金

ビー玉が貯まる時の条件を話し合い、共通理解している。

〈成果と課題〉

○ 学習の足跡の掲示と、児童が授業で発した言葉を称賛して掲示することにより、児童が既習事項を想起し、言葉を大切にしながら主体的に学ぶ環境作りにつながった。

○ 学習面や生活面での目標を共通理解し、学級全体で達成したら、ビー玉を貯めることにより、望ましい行動を意識し、実行する態度の育成につなげることができた。

○ 発表カードの活用により、各自の発表回数を見える化した。参観日には保護者にもカードを見てもらい、家庭と連携しての賞賛ができ、発表意欲の向上につながった。

● ビー玉が貯まることで、頑張りが見え意欲付けができるのはよいが、当たり前のことを当たり前にできる子供達を育てるためにも、また、ひと工夫していきたい。